

## 水土里レポート

投稿月日	令和4年10月5日(水曜日)
タイトル	田んぼの学校(収穫作業)
水土里レポーター名	小野寺 孝一

## 田んぼの学校(稲刈り体験)実施!

令和4年9月30日(金)

長引く新型コロナウイルス感染症対策で縮小して、町内の当麻小学校・宇園別小学校の児童110名(例年は約500名)が「田んぼの学校水田」で稲刈り取り体験をしました。

自分たちが食べる米を自分で育てる当麻町の食育事業の一環で、10月下旬の給食から1年分のご飯として小学校・中学校と幼稚園で食べる予定です。

子供たちは今年5月31日126㎡に「きたくりん」の苗を植え、7月15日生育状況と田んぼの生き物観察をしてきました。

稲刈りは鎌で1株ずつ丁寧に刈り取り、足踏み式脱穀機を使って籾(もみ)取り体験をしました。

水田は食育拠点施設「田んぼの学校」として2015年に整備された田んぼの学校の校長として水田の管理をしてきた農家の舟山賢治さんは「今年の米も上出来です。農業を継ぐ子どもが増えれば嬉しい」と話していました。

この後、給食1年分のご飯となる約7.4トンを収穫し、JA当麻の籾貯蔵施設(ライスセンター)に預けてその都度精米し出荷する予定です。

また、美深高等養護学校あいべつ校(愛別町)にも提供される。



左上：1株ずつ刈っている  
(6年生) 右  
上：農舎をバックに 一列  
に並んで収穫作業(6年  
生) 左：足踏  
み脱穀機で真剣に籾取り作  
業(5年生)